

IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム第44回会合 発言録

2024年1月22日

【加藤】 それでは、定刻を過ぎましたので、第44回の活発化チーム会議をスタートさせていただきたいと思います。2024年になって初めての会議で、後ればせながら、今年もどうかよろしく願いいたします。

では、アジェンダに沿って、順に進めさせていただきます。まず、日本政府からの御報告ということで毎回入っているんですけど、今回は山崎さん、ちょっと総務省の方、西潟様、データ課はおいでになりますけれども、国際課のほうからは特にその後ないという理解でよろしいですね。今日はちょっと御都合がつかないという、飯田さんも、望月さんもですね。望月さんじゃない。

【山崎】 岡崎さんは.....。

【加藤】 岡崎さんも、ええ。

【山崎】 特に報告内容がないので、スキップさせていただきたいということでした。

【加藤】 そうですね。失礼しました。特にその後、京都以降のフォローはないので、次、MAGからの御報告ということで、河内さんはもう参加されていますかね。

【山崎】 河内さん、まだ入られていないです。

【加藤】 まだ入られていないですね。私、さっきまで会っていたんですが、ちょっと私、先に、別件もあって飛び出してきたので、じゃあ、河内さん戻り次第、実はMAGの会議が既に始まっていて、もう御覧になっていると思いますけれども、今年のテーマティックインプットというんですか。いろいろ意見をもらいたいというのが1月末までというのが既に出ておりますし、MAGとして、前回ももう今年のスケジュール、概要がありましたけれども、スケジュールがかなり出てきて、その後も会議が続いていますので、ちょっと河内さんが参加されるのを待って、改めてMAGからの報告を伺いたいと思います。

その前に、次に行きまして、前回、NRIから行きますかね。NRIも、山崎さんはあれですけど、河内さんが参加されていて、先日の報告があるかなと思ったんですが、山崎さんからNRIに関して何かございますか。

【山崎】 はい。私と河内さんが参加したんです。

【加藤】 そうですね。はい。

【山崎】 1月15日に開催されました。今年最初の会合です。いろんな国から参加しているので、初めての方もいらっちゃって、その初めての参加者が自己紹介されました。アフリカの方が多かったですね。今回は特別にMAGの議長がゲストとしてNRIの会合に参加されていて、MAGの議長、Carol Roachさんが挨拶されました。それと、MAGとNRI間の協力をよりよくするためにということを議論して、結構いろんな人がいろいろおっしゃったので、それで盛り上がり、そのために、最初のメインの議題だったNRIの今年の作業計画の文書が、IGF事務局が作ったやつがあるんですが、もう下書きはできていて、それを承認するということがあったんですけど、そこまでは時間の都合上至らず、来月回しになっています。

会合中もしくはその後、NRIのメーリングリストで紹介された意見募集が以下3つありまして、さっき加藤さんがMAGのところで紹介していただいたのとかぶりますけれども、1月31日にはIGF 2024のテーマに関する意見募集が締切りで、2月29日には、これはUNCTADがやっているCSTDに、開発と何とかなる国際委員会ですね。それが主催しているWSIS+20、世界情報社会サミットというのが2003年と2005年にありまして、その20周年評価プロセスというのがあって、それに関する意見募集。これは2月29日締切りとなっています。もう一つは、さっき加藤さんがおっしゃったやつですかね。Leadership Panelが募集しているInternet We Want、去年の京都のIGFのテーマでもあったんですけども、それに関する意見募集が3月1日ということになっています。

ちなみに、2番目のWSIS+20の意見募集ですけど、これは、設問の項目は同じなんですけれども、ITUがこれに関して別途意見募集してまして、そっちの締切りは1月31日となっていて、ちょっとややこしいんですね。ITUはそれのほかにもWSIS Forumというのを毎年やっていて、その改善に関する意見募集も含めやっています。直接関係ないかなというところで、ここでは省いています。

NRIに関する報告はそれぐらいです。以上です。

【加藤】 どうも山崎さん、ありがとうございます。河内さんからMAGに関連して伺うことも、かなり今言われたスケジュールに近いものがあると思います。

今の2つ目のWSIS+20の評価プロセスについての最初のコメントに関して、ITUが1月31日デッドラインというのは、単純に延びたのではなくて、同じ内容で別のところが聞いてきたから、それぞれに別のデッドラインで答えると、こういうことなんですかね。

【山崎】 そうですね。CSTDが主催したウェビナーがありまして、そこでUNCTADの人に質問したら、行き先が違うので、設問の内容は同じだけれども、違うものだとおっしゃっていました。ただ、NRIの会合にCSTDのチェアの方が、ポルトガル政府の方ですけども、参加されていまして、その方は、UNCTADのほうの、締切りが遅いほうの意見募集の紹介をしていまして、ですから、NRI関係の方はこっちでもいいんじゃないかという感じがいたします。

【加藤】 そうですね。分かりました。ちなみに、CFIECの団体としても何かこのコメントをしたいということで、2月29日に向けて何か準備しようと思っておりますので、山崎さんがもしJPNICさんでもやられるという計画であれば、その辺、情報共有することは可能だと思います。

【山崎】 そうですね。JPNICでも2番目のほうを、ただ、行き先はITUにしようと思ってるんですけども。

【加藤】 そういうことですか。

【山崎】 意見を提出する予定です。

【加藤】 それは1月末を今にらんでやっていらっしゃるんですか。

【山崎】 そうですね。ターゲットにしています。

【加藤】 分かりました。

【山崎】 河内さんが参加されましたね。

【加藤】 そうですか。分かりました。

あと、Internet We WantのLeadership Panel、これはもうIWWという言葉が独り歩きし始めて、

いろんな文書に書かれていますね。だから、Internet We Wantというのが1つLeadership Panelの今後標語になっていって、それについてVint Cerfがいろいろコメントしながら意見を募集していくというプロセスが今後続くのかなと思います。

河内さん、大丈夫ですか。

【河内】 はい。聞こえます。

【加藤】 聞こえていますか。さっきちょっとMAGからの御報告ということで飛ばさせていただいて。

【河内】 すみません、ちょっと、今入って。

【加藤】 今、NRIに関して山崎さんから御報告いただいたんですが、最後のほうは聞かれたと思いますが、主にMAGの議長であるCarol Roachが出てきたとか、皆さん、新しい人の特に紹介があったということと、それから、3つのデッドラインの紙が今出ているという御報告をいただいたんですが、MAG、NRIにお出になって、何か御報告をお願いできますでしょうか。

【河内】 はい。今ちょっと最後のところ、意見募集のWSISのやつを聞いていて、多分延びたんじゃないですか。

【加藤】 山崎さんはそれは、一応別のところなので、同じ紙だけど、別の募集なんだというふうに解説されていました。

【山崎】 ITUが出しているやつが1月31日で、UNCTADが、というか、CSTDが直で募集している意見募集が2月29日までとなっていて、UNCTADの方に直接確認して、設問は同じなんだけれども、行き先が違うので、別の意見募集だという返事をいただいています。

【河内】 ちょっと画面共有させていただいてもいいですか。

【加藤】 お願いします。じゃあ、山崎さん、1回引いていただいて。

【河内】 取っちゃいますね。すみません。これで、これちょっと共有。これ、今見えていますかね。

【加藤】 見えています。

【河内】 これ、Anja（国連IGF事務局の担当者）から来たやつで、ITUとか、UNCTADは入っていないですけど、ITU、ここ入っているんですよ。これが、ここの下の部分が、前、1月31日のデッドラインだったやつと中身一緒なんですけど、この7番からの設問ですね。これが、締切り、どこにあった。上のほうに書いてあったかな。ここに2月29日と書いてありますよね。私もこれは1月のやつとどうなんだろうと思ったんですけど、多分、合体して延ばしたんじゃないですかね。ICC BASISからの報告にも締切りが延びたと書いてあったので。という気がするんですけど、その辺は、ちょっと今あちこち調べてみようと、時間がなくて分からないですが。

【加藤】 CSTDのものということは、UNCTADとは書いていないけど、CSTDですよ、これ。

【河内】 ITUと、少なくともITUは入っているんですね。

【加藤】 入っていますね。ええ。

【河内】 なので、という気がしています。

【加藤】 混乱していますね。

【河内】 ちょっと分からない。どっちに出しても行き先は、というか、まとまる先は一緒なのかもしれないので、どっちでもいいのかもしれないですけども。ということで、ちょっと共有を。

【山崎】 今ITUのを見たんですけども、共有が切り替わると思いますが。

【河内】 はい、どうぞ。

【山崎】 これ、ずっと1月31日だったのが、今見たら2月29日が変わっていますね。

【河内】 ですよ。そうそう。だから、やっぱり延びたんです。

【加藤】 本当だ、本当だ。

【河内】 延びたんですよ、多分。一緒にして延びたんだと思います。

【山崎】 そうすると、どっちでもいいということですね。

【河内】 そうですね。

【山崎】 こっちのほうログインが必要だったり、面倒です。

【河内】 そうなんです。さっきのほうログイン必要ないので楽かもしれないですね。

【山崎】 そうですね。

【河内】 はい。まあ、どちらでも。

【山崎】 はい。分かりました。ありがとうございます。

【河内】 それから、MAGの報告としては、先ほど話が出たのか分からないんですけど、Leadership Panelからのレターの話はNRIではそんなに言っていなかったと思うんですけど、言っていましたっけ、NRIでLeadership PanelからのVint Cerfからのレターの話とかって。

【山崎】 はい。レターは、メーリングリストで共有されただけです。

【河内】 そうなんですね。

【山崎】 一応はされています。

【河内】 そしたら、MAGのレポート.....。

【山崎】 すみません。共有とかのコントロールが一切表示されないの、そちらで共有を奪ってください。

【河内】 はい、分かりました。ちょっと待ってくださいね。MAGのレポートがどこ行っちゃったかな。すみません、ちょっと出てこない。ちょっと待ってくださいね。ありました、ありました。待ってくださいね。これを開いて、共有ですね。これでいくかな。駄目だ。ちょっと待ってくださいね。これで共有されたでしょうか。

【加藤】 はい。

【河内】 ちょっとちっちゃいかな。これ、1月16日の夜に第2回のリモート会議、MAGの会議がありまして、この事務局からの報告でまず一番大きいのは、このちょっと太字にしている5) のところでですけども、IGF 2024 (サウジアラビア・リヤド) の日程が、前回のときには12月17日から20日とたしか言っていたと思うんです。Day 0は対面でその間にはできないと言っていたんですけど、MAGのメ

ンバーから、いや、ちゃんとDay 0もできれば一緒にやったほうがいいんじゃないかとかという意見が結構出たこともあって再検討したみたいで、新たな日程が出てきまして、12月15日から19日に開催すると、Day 0も含めて実施するというふうに発表がありました。それが1つですね。

それから、Leadership Panelの話なんですけど、この3番のところですね。Leadership Panelの議長のVint Cerfから、今後のインターネットあるべき姿とかビジョンとかフレームワークとして、“Internet We Want (IWW)”というものをどういうふうに進めていくかという今後のスケジュールとかそういうものが、レターと、それからタイムラインで出てきていまして、一応、IWWを5つのトピックに大きく分けてというか、重要なトピックとして5つ挙げていて、それが“Whole and open”と“Universal and inclusive”、それから“Free flowing and trustworthy”、それから“safe and secure”、それから“Rights-respecting”と、この5つを柱にしてやっていきたいと。まずは何が課題かを一般から広く意見募集したいということで、これを3月1日まで、ここですね、1st Consultation。広く一般からの意見を3月1日までに募りたいと。その後、それをまとめてレビューして、サマリーを作成するのを4月中旬までと。それから、先ほどの5つのトピックごとにワーキンググループをつくって、Leadership Panelのメンバーをそれぞれその5つのグループに割り振って、5月中旬から始めて、そのワーキンググループの中で、まとまった意見をどういうふうに進めていくべきかという目標を設定して議論すると、10月1日までと。その間にいろんなグローバルな会議が今年あることになっていて、NETmundial+10が5月、それからWSISが5月末で、それからSummit of the Futureが9月、それから、ここにはちょっと書いていないですけど、中国の会議とかが秋にあたりとかする予定なので、そういうところで逐次、IWWでグループでやっている内容についてプレゼンテーションしていきたいと言っています。

その後、サウジアラビアの12月のIGF 2024で、MAGでも議論した後のIWWの最終的なドラフトを発表したいと。このLeadership Panelには、MAGの議長のCarol Roachと、それからIGF 2024のホストの代表のサウジアラビアの政府の方がMAGを代表して参加していますので、MAGのメンバーにも逐次その内容、活動報告をするということになっています。それがLeadership Panelの活動とMAGとの共同作業についてです。

それから、あとはMAGのワーキンググループ、去年2つあったんですけど、1) のIGF Strengthening and Strategyということで、IGFの成果をいかにグローバルな政策に反映したりとかいうことを戦略的に考えましょうということ去年からやっているワーキンググループを今年も継続すると。それからもう一つ、2) ですけども、ワークショップ、MAGで提案されたものを評価して、どうしても絞らないといけない場合に、選抜するというプロセスがありますが、その評価基準とかについて毎年検討するワーキンググループが行われていて、今年も継続すると。この3つ目ですけども、これは今年初めて、今年からメンバーになった中国からのメンバーの方が提案したんですけど、IGFとかMAGの活動をもっと一般に広くいろんな人に知ってもらいたいと思ったけど、みんな、中国語はできるけど、英語できないから、資料分からないし、読めないと言われたと。なので、英語以外の国連の6言語についても翻訳とかして広く資料とかをもっと見てもらったほうがいいんじゃないかということで、Multilingualというワーキンググループをやりたいという提案が出されていました。これ、実際にやるのかどうかはちょっとまだ。でも、反対しているわけでもなかったんで、そのままやるのかもしれないです。

それから、あとはちょっと、Policy NetworkとBest Practice Forumと一緒にするとか、一緒にしないほうがいいという結局結論になったんですけども、それから、2024年のIntersessional Workで、

Best Practice ForumとPolicy Networkのセレクションプロセスについて、今後の予定が説明されました。

あと、1つは、PNAI、AIに関するPolicy Networkです。これが、去年いろいろ活動してきたまとめをちょっと前にUN（国連）のHigh-Level Advisory Board on AIという、AIに関する諮問会議みたいなのができたと思うんですけど、そこへ、せっかくPolicy Networkでいろいろまとめた成果が出ているので、それをレターとして送りたい、レターとその内容を送りたいということで、ただ、2023年の活動のまとめであって、それは2024年じゃないので、もう2024年の活動に、2024年にもう今年入っているので、AIに関するPolicy Networkは、さっきちょっと言ったように、AIに関するPolicy Networkを設置するかどうかも本当はまだ、これから提案して承認されるというタイムラインのはずなんだけど、そこをどうするかとかいう議論があって、結局、AIは重要なので、今年もやるべきなので、ほかのPolicy Networkとかに先んじて、AIに関するPolicy Networkは今年も活動するということにして、そこにレターなり去年の活動成果を送ることを承認することになりました。

次회가、IGF 2024の意見募集が1月末まで今行われているので、それが終わった後、その出てきた意見を事務局でまとめて、それについて議論したいので、その1週間後ぐらいということで、2月6日ということになっています。

以上です。何か御質問とかあれば。

【前村】 河内さん、ありがとうございます。前村です。

もう一度、IGFの日程とかの辺りを見せていただくか、これが資料として我々に御提供いただけるのであれば、それはそれでとても助かるんですけども。

【河内】 IGFの日程、こちら辺。この紙、ざっと作っただけで、あまりきれいじゃないんですけど、よかったら全然、私が作っただけなので、何も多分問題はないと思いますので、山崎さんに送ったら共有できますか。今ここで共有しましょうか、どうしましょうか。

【山崎】 送っていただければ。

【河内】 じゃあ、山崎さんに送ります。

【山崎】 皆さんが見られるようにします。

【前村】 ありがとうございます。とても物事が動いていることがよく分かりました。ありがとうございました。

【加藤】 ありがとうございます。ほか、御質問とか御依頼事項ありますか。

本当、MAGのほうですごく動いているのがよく分かるのと、今のIWWへのコメントプロセス、これは結構フォーマルにやるんでしょうかね、河内さん。

【河内】 恐らく今受け付けている、さっきのWSIS+20みたいにウェブ上でできるような形を取るんじゃないかと思うんですが、すみません、ちゃんと調べ切れてなくて、すみません。

【加藤】 いえいえ。この5つのテーマについてやるとなったら、結構細かいことを。これ、言ってみれば、IGFでやることと、それからグローバル・デジタル・コンパクトでやっていることと、これで3つ目の極みみたいな、同じIGF関係でも。

【河内】 そうですね。

【加藤】 同じようなことをここでも言ってくれという感じで、どういうふうにLeadership Panelを捉えていいんですかね、今後は。ちょっとその辺。

【河内】 そうですね。多分Vint Cerfが、国連のGDCとかはやっぱり、Vint Cerfでもあんまり、ちゃんと手が届かないと言うと何か言い方悪いかもしれないですけど、結構、この間の藤村さんでしたっけ。

【加藤】 藤野さん、藤野さん。

【河内】 藤野さん、すみません。結構クローズドだみたいなことをちょっとおっしゃっていたような気がしますけれども、自分たちは自分たちで意見をまとめて正式に出したいと、何かそういう思惑があるのかなという感じはします。

【加藤】 これ、ぱっと見ると、例えば去年の京都でやったAIだとか、それからSDGsとか、その辺は抜けているんですが、そういうイメージのものではないところからこっちは入る、5つについて入るんですかね。

【河内】 そうですね。でも、例えばWhole and openとかRights-respectingとか、基本的なところは一緒なのかなと。完全に.....。

【加藤】 Rights-respectingというのは、当然権利というのは入るし、インクルーシブとかマルチステークホルダーとか、その辺はすごくあるんですけども、そういうもう少しテクニカルな部分、テクニカルコミュニティを含めて、もう少しテクニカルな部分というのはあまりないんですかね。インクルーシブのあたりで入るのかな。

【前村】 技術的なアスペクトで何か種別分けしているような感じはしないですよ。

【加藤】 そうなんですよ、ええ。

【前村】 ユーザーに対して、利用者に対してどういうものであるべきなのかということが、結構ぱつと見た感じ、4本柱、5本柱というのがよく配置できているなという印象をちょっと受けました。

【加藤】 分かります。

それと、これが今後、IGFの今年のテーマティックインプットから始まって、今後の流れになっていくとか、そんなことはないですね、これは。

【河内】 それは直接は関係ないと思いますね。

【加藤】 関係ないでしょうね。

【河内】 はい。もう今意見募集されているものをまとめた上で、MAGが意見を述べて決まると思うので、MAGが決定するということまではいかないかなという気がする。

【加藤】 そうですね。

【河内】 事務局が提案を出して、それに対していろいろ意見言うという感じだと思うんですけど。

【加藤】 分かりました。

ほかいかがでしょうか。御質問とかないですか。かなりもう年明けから動いているなという感じですけど。すみません。

【前村】 前村です。よろしいでしょうか。

河内さんにお伺いしたいんですけど、NETmundialで、すみません、MAGメンバーに今ブラジルからの人がいたかどうか覚えていないんですけども、もしいたとすれば—あの人はブラジル人かな、でも。ブラジルの方がどういうふうに言っていたかみたいところが気になるんですけど。

【河内】 すみません。いたような気はするんですけど、もしかしたら辞めちゃった、任期が3年終わって辞めちゃった。

【前村】 なるほど。

【河内】 ちょっとその辺、すみません、ちゃんと調べます。

【前村】 アルメイダはブラジルじゃなかったでしたっけ。

【河内】 あの人ですか、私の。

【前村】 ええ。

【河内】 彼はメキシコです。

【前村】 メキシコですか。そうですか。

【河内】 メキシコです。はい。

【前村】 CGI.brとは京都でちょっと話をしまして、国連主導のプロセスに物申すと言っているの、物申すというのか、ちょっと気に入らないからNETmundialでやっぱりやったほうがいいかなと思っっているようなんです。これを見ると何となく、IGFのプロセスがNETmundialを組み込んでいこうとしているので、これはブラジル人に見ればちょっと微妙なプロセスになっちゃっているのかなとも思うし、ただ、会合に.....

【河内】 いますね。

【前村】 そうですね。なるほど。

【河内】 彼女ね。彼女、ブラジルか。

【前村】 Bruna。Bruna、もう思いっきりど真ん中。

【河内】 すごくよくしゃべる人です、この人。物すごくしゃべる人。

【前村】 むちゃくちゃしゃべりますね、この人。

【河内】 よくしゃべる。でも、この人、多分最初のMAG会議のときにコロナを持ってきた人だと私は思う。さんざん咳をしていたんですよ、この人。すみません。

【前村】 いえいえ。分かりました。でも、そうはいつでも、いろんな会合がある中で、成果というのか、議論を積み重ねていくという姿勢はあるべきなので、それでもいいのかなという感じもしたんですけど、失礼しました。雑感でした。

【加藤】 ありがとうございます。

ほか、御意見とか御質問ありませんか。

NETmundialの日程は、何かさつき山崎さん書いていただいたとおり、4月29日になったんですね。西潟課長、お願いします。

【西潟】 すみません。お疲れさまです。河内さん、いろいろありがとうございます。

【河内】 いえ。

【西潟】 国際関係の議論もあるんでしょうけど、この活発化チームとしてはどこに手挙げたらいいんですかね？という議論というのはこの後されますでしょうか。例えば1個前の画面でいうWSIS+20のやつに行くのか、それとも、私個人の意見を言うと、Vint Cerfのやつが一番まともっぽく見えたりもするんですけどいかがでしょうか。Vint Cerfは国連に与さないけど、IGFには積極的というふうに私は理解して、Policy Network on AIのところにVint Cerfが来ていて、少し質疑応答、意見交換的なやり取りも私もしましたけど、AIの政策的な文脈について必ずしも正確な理解がある訳ではないと思っています。そういうことも踏まえると、よりインターネットガバナンスにステイックしたいというときに、このチームはどこで会話したらいいのかしら。将来的にはJapan IGFのリニューアルのレガシー版ということでもあるんでしょうけど、何か今日の段階で御示唆とかお感じになられたことがあればお願いします。2月29日までとかいろいろ、今からすれば少し緩めの締切りなので、それこそここに参加いただいているそれぞれの団体がどうされるかというのはさておくとして、この会議体として何かするほうがいいのか、あるいは見ているだけでもいいのかとか、その辺のところというのは、何かお感じになったこととか、今の段階でいただけることがあればありがたいと思います。

【河内】 私はそんなに全てのことをちゃんと把握しているわけではないので、何とも言えないんですけど、ほかの国のこういうNRIみたいな団体がどんなふうな活動をしていくかということも見ていきながらということはあると思うんですけど、私に何ができるのかということはある程度あるとはいっても、一応MAGなので、いろんな情報が割と早くいろいろ入ってくると思うので、一応Leadership PanelはMAGの議長とかも入っていますし、MAGと密接にいろいろ議論しながら進めていくという話にはなっているので、割と、どんなふうに意見を出していったらいいとかか、そういう意味ではLeadership Panelがやる活動に何かインプットしていくというのは、GDC自体、国連自体に出すよりも何かちょっと近道な感じはするところですね。ただ、本当にそれがどうなのか、そこまで、絶対これがいいとかということまで言えるほどではないんですけども、私から見ると、近いかないという感じはします。ただ、Leadership Panelも、Vint Cerfは見えますけど、それ以外のメンバーは、誰、どんな人なのかあまりよく分からないところもあって、どれぐらいの活動がこれから1年間できるのか、やっていけるのか、Vint Cerf1人でやるようなものなのか、その辺も見えないですし、もうちょっと様子見たほうがいいかなという気はしますけれども。すみません、全然、その程度の感想しかなくて申し訳ないんですけども。

【加藤】 西潟さん、私からもコメントしてよろしいですか、加藤ですが。

【西潟】 ぜひぜひお願いします。

【加藤】 まず、ちょっとこれ言うと、建て付け論で少し恐縮なんですけれども、活発化チームというこのチーム自身は、まとまって活発化チームとして何か意見を出すということは今まであまりやってこなかったの、これも1つ課題で、今後このチームをもう一度見直して再スタートするという話を今日この後させていただきますが、そういう中で、そういう意見形成もして、情報発信なり意見発信もできるようなことをやっていくべきなんじゃないかと思っておりまして、その提案もさせていただきます。私の理解では、そうはいっても、活発化チームのメンバーになっているJPNICさんとか、今河内さんが所属されて、私も所属しているんですが、CFIECというシンクタンク、団体としても個別に伝えていくということはこれからも継続していくことになると思います。それで、それじゃ、

このものをどう捉えているか。これは私だけのあれで、CFIECの中でもそんなに揉んだわけではないんですが、少なくともCFIECはこのWSIS+20の2月29日締切りの意見募集については何か出そうということにはなりました。あと、今の河内さんとのやり取りもそうですけど、私もVint CerfのこのLeadership Panelは、外からも見えるし、意見募集のプロセスがあるなら、ぜひ、何か前向きなコメントを出していけるような場になるんじゃないかなと思って、非常に興味を持っているので、これもCFIECとしても検討したいと思っています。GDCのプロセスとかNETmundialのプロセスがまだ完全にプロセスが見えないんですが、そういうものが見えたらコメントしますが、どうも、さっきの河内さんのお話もありましたけれども、GDCのプロセスとか、9月に国連でどんなSummit of the Futureがあるのかというのが見えてこないの、そもそも、コメントして、それが建設的に反映されるプロセスがあるのかも分からないので、今のところは何も言えない。ただ、最初に戻ると、IGFのグループとしてコメントするのは、まずWSIS+20のところで、IGFは継続してほしいけれども、こういうところを改善してほしいというようなコメントを出すのかなというのが私の今の感じ。少し御参考、お答えになっていますでしょうか。

【西潟】 ありがとうございます。十分でございます。

【前村】 前村ですけれども、よろしいでしょうか。

【加藤】 はい。

【前村】 私もテクニカルコミッティーから流れてくる情報をウォッチしておこうと思います。どこかで結構早耳が、聞ける可能性があるの、こういうところで持ち寄って情報交換するというのは、こういうふうなグループとして、とても好ましい、やるべきアクティビティーなんじゃないのかなと思います。それなので、NETmundialに関しては、私、+10というか、10年前のNETmundialは委員でやっていて、そのときですと、あのときのNETmundialは4月のもうちょっと早い時期にやって、それに対して年内中に委員会を立ち上げて、組成して、決めたはずなんですよね。なので、委員会ができて3か月ぐらいでステートメントを書いて、ドラフトアップして、当日それをみんなでラティファイするというようなことをやったわけなんですけれども、同じようなプロセスをやるんだとしたら、そろそろ委員会つくっていかなきゃいけないということを見ると、ちょっと違うプロセスをやるのかなという感じもしますが、その辺も少し気をつけて見ておこうと思います。私自身、NETmundial、乗り込んで見てこようとは思っています。

以上です。

【加藤】 あと、御質問ございますか。ここまでのところ、よろしいですか。

河内さん、大変詳しい御説明、ありがとうございました。

【河内】 ありがとうございます。

【加藤】 取りあえずここで次のアジェンダに移らせていただくとして、12月26日、27日の報告会の振り返りということで、山崎さんから例によっていろいろとインプットいただけるのかなと思います。まず山崎さん、お願いしてよろしいでしょうか。

【山崎】 はい。山崎から報告します。IGF 2023報告会振り返りということで、なるべく簡潔にしたいと思います。

参加者ですけれども、26日火曜日は61名、内訳は現地19名で、遠隔42名、27日水曜日が54

名で、現地13名、遠隔41名ということでした。

アンケートは18名の方から御回答いただいでいて、ステークホルダーは結構いい具合にちらばっているかなというところでは。

イベントを知った理由で一番多かったのは、この活発化チームのメーリングリストということになりました。

初参加は半分弱ぐらいですね。ですから、これもなかなかいいんじゃないかと思います。初参加というか、インガバを扱ったイベントへの初参加を聞いているんですけども、半分弱が初参加と。

次は、参加した理由です。インターネットガバナンスに関心を持つ人が一番多かった。

参加日程は次のようになっています。

これは、各個別のセッションに対して興味がある、出席したというところでは。

プログラム全体の印象は、「役に立った」が9割弱ということで、そういう意味ではよかったのかなと思いました。

開催形態は、参加形態は「よい」が多いですけど、ほかは「よい」と「普通」が結構近いという感じでは。

これは参加者の都合によるのでいろんな意見がありますけれども、比較的参加しやすいというのから、もっと早く終わればいいのか、年末だと厳しいとか、いろいろコメントをいただきました。

IGFに参加したかどうかというのは、結構参加した人は多かったです。登壇した人はそれほど多くなかったと。

ここが一番重要なかなと思いますけれども、自由記述項目ですけれども、登壇者からも、もうちょっとこちらからも、なぜお願いするのかとか、その辺を練ってお願いすべきだったかなというところですかね。その辺は、結構ばたばたして、もうお願いするのが精いっぱいというところではありましたが、その辺は次回に生かしたいと。

この線があるところが回答者の区切りですので、上の4つは結構、同じ方からがつつりコメントいただいたかなというところになります。

IGFに参加して貢献するのは日本の義務だという御意見もありました。

2024年からの目的を決めたほうがというのは、この次の加藤さんの項目になるかとは思いますが、これは結構重要な御指摘かなと思いました。

次は、そうですね、運営で、確かに、結構予定よりも早く終わった方がいて、そこに急遽ほかのこまを当てはめたりしていたので、分かりにくいというのは。

現地参加者が少ないというのもちょっと、発表される方はモチベーションが上がらないかもしれないという意味では現地参加者を増やしたいところではありますが、皆さん多分もうリモート参加に慣れているので、バック・ツー・バックで、前の会議から次の会議というのだと、遠隔参加が多くなってしまふのかなと思います。

去年は京都でIGFがあったので関心は多かったけれども、今年、来年となると関心が低下す

るのは避けられないが、運営は頑張れという御意見もございました。

そんなところでしょうか。以上になります。御不明な点、御質問あればお願いします。

【加藤】 ありがとうございます。

【山崎】 本田さんの手が挙がっています。

【加藤】 本田さん、お願いします。

【本田】 まとめ、ありがとうございます。

一番前のページの参加者のグラフのところでしょうかね。ちょっと、多分、ゼロ%の項目もあるんですかね。何か色が分かりづらいなど。一番上ですね。色が分かりづらいなど思いました。その上です。円グラフのほうです。なので、青と青とか、紫と紫とか。

【山崎】 紫が2つ、確かに。

【本田】 同系色はちょっと避けていただいて、色の.....

【山崎】 色が選べないんですよ。

【本田】 選べないんですか、このツール上。

【山崎】 だから、吹き出しが何かつけるべきですね。薄い紫は高等学校で、濃い紫が政府・地方自治体ということです。

【本田】 この色は選べないんですね、このツールで。

【山崎】 確かに、これは紛らわしいです。おっしゃるとおりだと思います。

【本田】 もし何か手が加えられるものでしたら加えていただければと思います。

【山崎】 はい。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。

ほか、御質問とか御意見ございますか。

もしなければですが、一応この場をお借りして、河内さん以下、CFIECの4人の方が分担して2日間の報告書を作っていたいただいて、山崎さんのほうでそれを今ウェブサイトにも上げていただいています。かなり今回、9ページほどの詳しい内容で、発言していただいた方にもチェックいただいたりとかして、そういう意味で、今回の会議の成果が見える形で残せて、よかったのかなと思います。CFIECの方々、大変お疲れさまでございました。

あと、これを簡単にまとめて、今度時間のあるときに簡単に日本語から英語にして、ある意味で、NRIとしてこういうことをやっているというのを御報告いただくということも引き続き考えていただいていると理解しています。よろしくをお願いします。

河内さん、それでよろしいですね、言っちゃって。

【河内】 いいです。今、作っているまだ途中なので、あと何日かいただければ。

【加藤】 もちろんです。こうやってやっていただくだけでもありがたいので、ありがとうございます。

ということで、振り返りはそんなところでよろしいでしょうか。これはちょっと個人的な印

象なんですけれども、いつも、せっかくいい内容を提供しても、参加者がネット上を含めて100人を切るというのは、ちょっと残念な気がするんですね。やはりまだこのインターネットガバナンスというか、IT関係のこういう機会というのがまだ十分普及していないのかなということを感じるんですけど、ぜひこのメンバーの方々は引き続き、どうやったらこれを広められるかというのを御検討いただきたいなと思っています。それ以外は、内容的に非常に充実した内容で、特に今回たくさんの方が出ていただいて、記録も本当に、これだけ長い量のものになるということは、すばらしい内容だったと思います。

じゃあ、よろしいでしょうかね。山崎さん、このまとめ、本当ありがとうございました。

【山崎】 人数が100人いかなかったというのはちょっと残念でしたね。事前会合と同様、かなり幅広くお知らせはしたんですけども、活発化チームのいつもの会合よりは多かったですけれども、事前会合ほどは参加者が伸びなかったです。

【加藤】 そうですね。これは本当に永遠の課題のような気がして、内容的にやっぱりちょっと親近感が少ないんですかね、このインターネットの関係の会議というのは。ちょっとその辺はぜひ継続して考えていきたいなと思います。この後、活発化チームが衣替えをして、今後はもう少しいろいろなこういう情報発信といいますか、意見交換会とか、専門家を呼んだ会とかをやりたいと思うんですけど、そういうときも、なるべく幅広い人々に見ていただいて、聞いていただいて、意見もいただけるような、そういう場をつくっていききたいと思うんですけども、どうやってそれが広められるかというのは考えていく必要があるなと思います。

皆さん、何か。もうこれでよろしいですか、コメントは。

それじゃ、次の課題、議題として、この活発化チームの今後についてということで議論させていただきたいと思います。それで、前回の会議で、次回、法人化するということで、8項目というのをお話して、大体その線に沿って検討しますと。1月の活発化チーム会合では案を出しますと私が申し上げたんですけども、じゃあ、ちょっと山崎さん、今のたたき台のほうに移っていただけますか。

前回の会議を踏まえて、最初のところに「基本の考え方」というのがございますけれども、それに基づいて今回もう少し具体的な案をつくりまして、皆様に御披露したいと思います。繰り返しになりますけれども、この基本の考え方、これまでお見せしたものと「てにをは」を若干修正していただいて、いろんな御意見いただいて、「てにをは」は修正してはいますが、基本は一緒です。

1項目にあるように、まず、京都のレガシーとして、もっと国内のIGF活動を恒久的、持続的なものにしたい。

ただ、IGFと言うからには、誰もが自由に参加して、発言して、内容を公開するという、このIGFの基本方針を維持したい。これは後にIGFのCode of Conduct、もう一回リファアしておきましたけれども、そういうことが実現できる場である必要がある。

もう一つ、これまでIGFに関連してはいろいろな場をつくってきたんですが、それらを一つの組織にして統合したいと。

4つ目にありますけれども、今まで活発化チームはこういう会議を主催したりやってきましたが、活発化チームの名前で、例えば総務省様から後援をいただくとか寄附をいただくとか、そういうことが法人でないことのゆえにできなかったというものがあります。この際、できればこの組織を

法人化したい。これは長年の懸案事項だったと思います。

ただ、法人となっても、物すごいお金を予算化できるわけでもないし、それを前提にするわけではなくて、あくまで今までのボランティア精神で活動すること、そこからスタートして、ただ、法人となれば、いろんな寄附をしていただくベースにもなるということで、公益的な活動として継続すると考える。

6番目として、単にIGFというのではなくて、インターネットガバナンスも少し広くやるということで、先ほどのNETmundialだとか、Leadership Panelのいろいろなコメント募集とか、そういうことにも当然対応できるような、そういうグループにしたいということですね。

それから、これも懸案事項だったんですけども、事実上、先ほどから山崎さんや河内さんが御報告いただきましたが、日本のNRIのリエゾンとして活動していただいているんですが、その辺の登録もきちっと、新しい組織として、そのメンバーとして登録して、国際的にも連携するということにしたい。

最後に、このIGFの活発化チームの会合は、全員参加の「本会議」というものをつくり、さらに、いろんな企画ごとに、例えば報告会をやるとか事前会合をやるといったときに、今までプログラム委員会とかやりましたけれども、そういうものをきちっと継続する。さらには、ここに「部会」と書きましたが、例えば先ほど西潟さんから言われた、この活発化チームとして何か意見を提案するという場合、そういう部会で 이슈をきちっと議論して、もんでいただいて、提案書を作っていたとか、そのようなこともできるようにしたい。そういうものを支える事務局というものももう少しフォーマライズしたい、このような基本的な考え方でスタートしています。

次のページに行っていただいて、次のところに行っていただいて、まず、これは前回も西潟様からも強く御指摘いただいたんですが、もう一度、この組織をつくることによってNRIにきちっと登録しますということで、これまでいろんな経緯があって、ここに書きましたとおり、登録の内容が若干ねじれが生じていますので、ここをきちっと関係者の御了解の下、整理して、改めて登録する手続きをします。これはもう既に一部、前村さんから元の登録の関係者に連絡していただいて、新たにこの修正のための第1ステップのような働きかけはしていただいています。これも至急やるということでございます。

次に3のほうに行っていただけますか。次のページに山崎さん行っていただけますか。組織の構成なんですけど、その案の前提として、IGFの行動原則、これは先ほど申し上げたとおり、IGFの活動というのは、みんなが自由に参加して、公開されるということで、この新しい組織をここでは仮に「協議会」と呼んでいますけれども、この協議会は、中心になる活動は、今ここでやっております活発化会議のこの会合ですね。これをこの紙の中では「本会議」と呼んでいますけれども、本会議として継続する。これはもう誰でも、全く無料で、いつでも自由に、登録さえすれば、ネットでつなげて参加できると、こういう会議にします。これが大原則です。その本会議の下に「事務局」「委員会」「部会」、さっき申し上げたものをつくりたいということです。

ただ、もしこの組織を法人化する場合には、御承知かと思いますが、例えば一般社団法人にする場合に、法律上は一般社団法人の社員というのが必要なんです。社員が社員総会を行って、そこで会社のような法人組織を維持するという最低限の法的な仕組みが必要です。したがって、この「社員」「社員総会」の仕組みを一方で持ちながら、先ほどのみんなが自由に参加できるというものとどう

やって整合性を取っていくかということが1つ法的な課題でありまして、これは後で申し上げます。そのところは、社員はもう法律上、法人格を維持するに最低限必要な形だけを取って、基本的に全ての活動はこの本会議でやる。みんなが自由に参加して、自由に意見を言って、そこで決めるという形を取りたいと思っております。ただ、そうすると、ひょっとすると、本会議自身があまりにも調整がつかなくなって、あるグループだけがすごい意見を強く言って、全体としてバランスが取れないとか、法人の活動が停滞してしまう、止まってしまう、そういうことがないように、もう一つ、そういうチェック・アンド・バランスの機能を持つために「評議員会」というのをつくる。この評議員会は、マルチステークホルダーとしていろんなグループの方が正式に入っていて、そこが、もし、こういう問題についてはどういうふうに決めようかということはどうしても最終的な判断を仰ぐ必要があるときにだけ、評議員会に諮問して、そこでいろんな意見をいただくと、こういうチェック・アンド・バランスの機能だけは持っておきたいと。恐らくここが必要になることは、今の活発化チームの活動を見ている、ないとは思いますが、安全弁としてこういうものを持っておくと。繰り返になりますが、本会議という本来の中心活動と、法律上の法人組織を維持する社員と社員総会、3つ目としてチェック・アンド・バランスのための評議員会、この3つを組み合わせた仕組みにするというのが今回の御提案で、何人か御専門の方々にも御相談して今現在に至っているものです。

以下、もう少し詳しく御報告します。

まず、「本会議」ですけれども、この本会議というのは、今、活発化チームでやっている活動と同様に、大体月に1回程度、今、定期的に会合をやっておりますが、このような会合をやって、いろいろな、MAGでどういうことがあるとか、NETmundialがこうなっていると、こういう情報交換をする場として考えています。

それ以外に、ここにありますとおり、本会議の下に「事務局」と「委員会」と「部会」を最低、今つくったらどうかと考えています。この辺はまだまだこれから変えられますし、名前等も含めてまだまだもちろん変更できますが、機能としてこんなことがあるといいというために今案として考えているものです。

まず、「事務局」ですけれども、協議会の運営、それから、最小限の法人組織を維持するための社員の会、そこへのお手伝いもあるかと思っておりますけれども、基本的には、ウェブサイトの運営とか、いろんな会議の連絡等、今まで主に山崎さんがやっていただいているものですけれども、そういうものをフォーマライズして事務局ということで活動していただくということになると思います。法人化によって、もし今後、資金的にも余裕ができるといいますか、資金的なバックアップができてくれば、もっともこの事務局機能が強化できればと思っておりますが、今まだそこは完全には見えていないので、独立して事務局をどこまでやるかというのは未知数ではあります。

「委員会」というのが、これも今までやってきたとおり、プログラム委員会のように、一時的なイベントごとのものもあれば、恒久的な委員会をつくるということもあると思います。

それから、次の「部会」ですけれども、部会というのは、例えばインターネットのインフラに関して何か議論するための部会をつくるか、セキュリティーに関しての部会を、セキュリティーがあまりいい例かどうかあれですけれども、WGC、WSIS+20についての意見を、各部会をつくるか、NETmundialのフォローのために部会をつくるか、そのような形で、部会というものをして、それぞれの問題について議論するような場をつくっていきたいと思います。

これに加えて、この部会を主に中心にして、本会議では、いろいろな事務的な連絡で、今まで活発化会議やそれを中心にやってきたんですが、今後は、できれば毎月がいいのかもしれませんが、2か月に一度程度はイシューごとの勉強会とか研究会とか、そういうものを開催していければと思っています。この辺は、今回のIGFの報告会のまとめを作っていたいただいたCFIECのほうでも定期的にウェビナーをやったりいろんな研究会をやったりしていますけれども、そういうものと共催するような方法もあると思いますし、いろいろ外部のグループとも協働しながらでも結構ですし、このIGF関連で専門にいろいろ活動されている方々、今回の報告会にも出ていただいた専門の先生方、そういう方に毎回お声がけをして出ていただいて、それぞれのイシューについて議論するような、そういう場をこれからは開催していきたいと思っています。

それで、4、次に行っていただけますか。もう一つ、チェック・アンド・バランスのために「評議員会」というのをつくると言いましたけれども、これは協議会の活動を適正に運用する、さらに、協議会をマルチステークホルダーにすることを担保するためにも評議員会というのを設けます。これについても、議長、副議長というのを設けて、協議会として、IGFのこの協議会はどういう方向で、どういうことを議論していったらいいとかというようなことを諮問していただく。ある意味ではLeadership Panel的な要素もあるのかもしれませんが、さらにチェック・アンド・バランスのために諮問委員会的な機能を持つのかもしれません。その辺はきちんと定義したいと思っています。さらに、例えば村井先生のような方にこういうところに入っていただいて、この協議会としていろいろな活動を対外的にも紹介していただくとかいうようなこともお願いできるかもしれないと思っています。

次に、「社員」と「社員総会」、これは本当に法的な形を維持するためのものですが、まず発起人がこの社団法人をつくる活動をするんですが、今日この場で、発起人になる方々、ぜひ考え始めてください、ぜひ名乗り出てくださいということをお願いしたいと思っていますが、まず、会社をつくるためには何人かの発起人というのが必要です。その発起人が最初のこの法人組織の定款を登録して、それで会社ができるということです。法人組織として、社員と社員総会を年に一度は最低やるということになっておりまして、それで、法人組織さえできてしまえば、あと全ての活動は、先ほどの本会議並びに委員会とか部会とか事務局とか、そういうところをお願いして、ある意味では、この社員、社員総会は形を支えるための必要最小限の機能であって、全ての活動は本会議のほうに委任すると、そういう形を取るということになると思います。

2つ目のパラグラフに書いてありますが、私の知り合いの弁護士さんにこの辺詳しく御相談したんですが、やり方として、理事会設置の一般社団法人として、理事や監事が、こういう名前が必要になるんですが、そういう方々は、本来であれば理事がすごい権限を持って活動を全て決めるみたいな言い方になるんですが、そうではなくて、理事や監事は、本会議、評議員会に対して委任契約で、ぜひ自分たちに、何をするか、必要なことだけは指示してください、本会議が決めたことをそのとおり形の上で法人として承認しますと、そういう委任契約をすると、そういう立てつけを考えています。そういう意味で、この社員、社員総会というのは、ほぼ外には見えないといいますが、ほとんど実質的にはいろんな意思決定はしないと、そういう立てつけだと御理解いただきたいと思いません。

次に、それじゃ何をするか、活動内容ですけれども、7番の案のところ、山崎さん、見せていただけますでしょうか。今申し上げたとおり、本会議の会合、これは今の活発化会議を想定していただければいいと思います。それから、定期的研究会、これも、二、三か月に一度と書きましたが、

恐らくもっと頻繁にやろうと思えばやれると思います。いろんなイシューについて、毎回テーマを決めて、お一人または複数のパネリストで議論したり報告会をやるということを考えています。それから、当然、日本IGF会議のようなものということもこの組織としてやっていきたいですし、部会として、いろんなところに意見表明をすとか、いろんな意見を書くとか、場合によってはダイナミックコアリションのように活動するというふうにもなっていければいいなと思います。それから、最後になりましたけれども、当然のことながら、NRIとして登録をして、この法人の代表として日本でこういう活動をしているということを世界にも表明していただく。今、山崎さんや河内さんが御足労いただいていますけれども、そういうものも正式にここで認知して、この法人の代表として、NRIのリエゾンとして活動していただく。この法人自身はNRIとして日本の活動を支えると、こういうことになると思います。

ということで、今後のスケジュールですけれども、なるべく早くこれを、この方向を認めていただいて、進めていければなということで、今日、まず御質問、御意見いただきますけれども、できれば、大きな方向性について、こういうことで検討していいということを私としては御了解いただいて、さらに細かいプロセスを検討するということを御了解いただきたいと思っていることと、それから2つ目は、この法人化準備委員会と言えばいいのかなと思うんですが、この案に沿って、具体的に定款の案をつくったり、それに必要ないろいろな規則、それから、先ほど申し上げましたが、委任契約をすとか、そのようなところの仕組みが必要になりますので、そういうものを今後つくっていく必要がありますが、そういうものを検討していただく準備委員会というのを設置したいと思います。ぜひボランティアベースでそこに名のりを上げていただければと思います。これが2つ目です。

3つ目として、準備委員会の活動の中で、今後、かなり法的な書類作成も必要になりますので、弁護士さんの選定とか、それから、スタート前後から会計士さんのサポートというのが必要になりますので、この辺もいろいろ案はございますけれども、この辺の検討も必要になるので、もし会計士さんとか弁護士さんでこういう人がいいというのがあれば、ぜひ御推薦いただきたいと思います。それから、スタートする場合に、これ、今はJPNICさんのウェブサイトをいつもお借りして、山崎さんの御足労でウェブサイトができていますが、このウェブサイトも適時、どういう形でか作成していく必要があると思いますので、準備委員会ではその辺の検討も必要になると思います。これが3つ目のポイントです。

4つ目として、さっき途中にも申し上げましたが、この組織を法人化するためには発起人会というのが必要になって、発起人になっていただく必要がありますので、我こそは発起人になるという方はぜひ名のりを上げていただきたいというのが4つ目でございます。

以上ですが、もう一度繰り返しになりますが、本日は4つのことをお願いしたいと思います。1つは、大きな方向性として、この今日突然お見せした紙全部を承認してくださいということではございませんが、こういう方向で検討することを御了承いただきたいということが1つ目。それから、法人化のための準備委員会の設置と、そのメンバー、参加募集ですね。2つ目です。3つ目は、弁護士さん、会計士さん、ウェブ作成等について、何かいいアイデアがあれば、ぜひいただきたいということでございます。4つ目は、発起人になることをぜひ御検討いただきたい。または、発起人、あの人がいいというような御推薦があれば、それもぜひお願いしたいということでございます。

以上、走り切りましたが、もし御意見とか御質問あれば、よろしくお願ひしたいと思います。いかがでしょうか。

当然のことながら、前村さんや山崎さんにはここに至るまでにかなり御足労いただいたんですが、前村さんから何かコメントいただくことはありませんか。

【前村】 ありがとうございます。すみません。私が率先というのか、自ら手を挙げてよかったところ、失礼しました。このシナリオに関してJPNICのほうでも検討を進めていまして、少し、何でしょうね。何分堅い組織ですからというところなんですけど、結構細かなところまで含んだプランをこれから動かしていくというところにおいて、いろいろと心配症な人が多くて、今、一生懸命すり合わせをしているところなので、こういった方向で考えるんだというふうなこと、そして、国内IGF活動の基盤をきちんとつくるんだということというところは大賛成であって、その中のことはいろいろとまた考えていかなきゃいけないんですけれども、ぜひとも前向きに考えていきたいと思っております。ぜひとも今後の組織づくりの検討には携わらせていただきたいと思います。

【加藤】 ありがとうございます。本当に心強いですというか、JPNICさんはもう本当に中心的にやっていたので、一昨年、前村さん中心になって、法人化をするとしたらということがかなり御検討いただいたんですが、そのときは京都会議を前にして、1年、当面ペンディングということになったんですが、基本的にはあのときのものがまた復活しているという面もございますので、ぜひ引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

【前村】 そうですね。そういった意味で、補足が足らなかつたところがありますね。日本IGFタスクフォースを立ち上げて、そちらのほうの流れでつくっていくというふうな構想をしていたんですが、ちょっとそういうふうな思ひたとおりにいかなかつたところがありまして、今の加藤さんのこういったプランで考えておひまして、タスクフォースのほうもそういった形で整えていくというふうなことで考えています。

以上は申し上げておかなきゃいけないことでした。失礼しました。

【加藤】 ありがとうございます。そういう意味で、タスクフォース、5つの団体が入っていたひているんですが、その団体のほうも、おおむねこういう方向でということは、大きな枠としては御了承いただひていると理解しておひます。引き続き細かいところ、いろいろコメントなり御提案いただひればと思ひます。

立石さん、お願ひします。

【立石】 すみません。そういう意味では、JAIPAも、どこまでお役に立てるか分かりませんが、どういう発起人なのか、ちょっとその辺あれですけども、基本的には全面的に御協力するという形でやりたいと思ひますので、ぜひともよろしくお願ひいたします。

【加藤】 ありがとうございます。伝統的にJPNICさん、JAIPAさんが中心でこの日本のIGF活動を引っ張ってきていただいたので、ぜひ継続してそこはよろしくお願ひしたいと思ひます。

今、岩井様からチャットで御質問があつたので、御質問、私から答えさせていただきますけれども、一般社団法人という理由ですね。NPO、NGOに比べ、どのような利点があるかですが、これ、ずっとこれまで活発化チームはNPOでやってきたわけですね。事実上、法人化しない形でやってきたんですが、例えば総務省から、活発化チームがこういうIGFの報告会をやりますと申しても、法人格のないところに総務省さんが後援をするとか、そういうことが難しいとか、そういうところにいろいろな民間団体も含めて寄附なりをするということが難しいといういろいろな制約があつて、やはり法人としていろいろな主体性を持てるようにする、いろいろなところからの寄附も受けられるようにするというよ

うなところが必要だということをずっと検討してきました、今回、この機会にそういうふうにすることが適切なんじゃないかという結論に至っているということです。イワイさん、よろしいでしょうか、それで。

【前村】 恐らく、NPO法人ではなく、一般社団法人という法人にしたこと。

【加藤】 ごめんなさい。NPO法人じゃなくてNPOという、ごめんなさい、法人格のない意味のNPOだと思っていますが、そうですね、訂正ありがとうございます。そういう意味じゃ、非営利法人というのは、ひょっとすると今後、一般社団法人から非営利法人というのをまた、非営利の社団法人とか財団法人というのを目指すかもしれませんが、結構手続的に大変なので、今、必ずそうしますというのは言いにくいんですけど、それは、非営利法人でなくて、こちらでということではないです。法人格を持ったほうがいいというのが今の私の答えのポイントです。

山崎さん、お願いします。

【山崎】 似たような質問になりますけれども、法人化したいという理由は分かったんですけども、前村の質問と大分かぶってしまうかもしれないですが、NPO法人、特定非営利法人とか一般財団法人という形態じゃなくて、一般社団法人にした理由というのが岩井さんはお知りになりたいのかなとちょっと想像したんですけど。

【加藤】 すみません。そういう意味でいうと、まず、財団法人というのは、基金があって、それを運営するというのが財団法人だと理解してしまっていて、それではないということで、社員が発起人となって、発起人が社員となって運営するということが一般社団法人です。その活動が今後非営利法人を目指すとなると、すごく細かい要件があるんですね、今法律が厳しくなって。その要件を満たせば、非営利の社団法人というのは将来あり得るかもしれないです。ただ、今まだそれを目指すところまでいかない第一歩で、かなり時間をかけて手続的にそれをやらないと、非営利の社団法人というのはできないと理解していますので、それは将来的にはあり得るのかなと思います。

本田さん、お願いします。

【本田】 この社団法人という件で、私はそれで、今のここまでの説明で賛成する立場ではあるんですけども、NGOというのはそもそも、このやっていること自体がNGO、ノンガバメントなので、政府に依存しない形でのインターネットガバナンスなので、それはそうなんですけれども、全世界的に言えばNGOなんですけど、NPOというのは、ざっくり言って10人以上のメンバーが必要で、それぞれが均等に意見をつくっていかないといけないということがありますよね。結局ここでやりたいことは、皆さんがいろんな意見を持ち寄って、お互いの情報交換をしながら全体の意見合成をしていくところなので、別に何か活動していく、何かのイシューに対しての活動を直接していくというアクションを起こしていくわけではないので、性格上、NPOではないのかなということと、今、一番大事ななと思ったのは、この組織の運営そのものと、いわゆる本会議、研究会、部会とかというものは別であるというところ、ここがよいなと思ったということで、要は、お金を出しているんだから言うことを聞いてくれというような話にはならなくて、皆さんがそれぞれ自由に発言できると、立場は別としてですね。ということと、実際にそれを支援する母体となる、基金的な、費用的な面でバックアップするメンバー、社員があるというところは非常にいいなというところなんです。非営利型のものになっていくのは理想ではありますけれども、それは確かにまだ先の話かなと思っています。

【加藤】 ありがとうございます。非常に本質的なことをコメントしていただいて、ありがとうございます。

ます。

この組織、今まで活発化チームをJPNICさん、JAIPAさんが中心になって引っ張ってこられて、今後、河内さん以下、CFIECというシンクタンクもかなりいろんな形で御協力していただくというか、私もそのメンバーなんですけれども、いろんな形で協力していきたいと思いますが、IGFの活動というのは、そういう個別の団体がやるものではなくて、みんなが集まって自由に意見を出せると、そして、それを国際的にもNRIとして発信できていく、そういう場であるということがポイントだと思うんです。だから、いろんな人たちがそうやって入っていただいて、去年はIGFタスクフォースというのができて、5つの団体でやってみたわけですけど、同じようにそういう方々が今後も入ってきて、みんながここで自由にやれる、そういう場をつくる。その場をつくることを法人化して、もう少し継続的、安定的に運営できるようにすると、そういう趣旨で、誰かがこれをコントロールするとか独占するということではない。そのために、一番自由を保てるための仕組みは何かなということでも今考えさせていただいたというのが背景です。

この場でもし御質問、御意見、さらにいただければと思いますが、もしない場合も、今山崎さんから見せていただいたたたき台をこういう形で、取りあえずこの方向で今日の会議としては御了解いただいたとしても、内容についてコメントいただくコメント期間は7日間、山崎さん、お願いすればよろしいんですね、まず。

【山崎】 はい。コメント期間、7日間というふうに決まっているはずですよ。

【加藤】 そういうことですね。それで、7日間コメントしていただいて、それで特に大きな変更がなければというか、コメントの内容を反映して、さらに7日間でそういう方向で承認いただくと。ただ、ちょっとお断りですけども、それで方向性として承認いただいたとしても、すごく細かいリーガルなポイントとして、先ほどの委任契約をこうやって結びますとかというようなことが書いてありますけれども、この辺、本当にもう一回弁護士さんと細かく議論して、もう少しこういうふうに変えたほうがいいという部分が出てくるかもしれません。そういう法的なテクニカルな問題についてはまだ若干の修正の可能性はあるというふうに、私自身も絶対これがベストというのは、いろんな先生方の意見も聞く必要があると思いますので、まだここで断定できないので、今お示ししたのが現時点ではベストだと思っていますけれども、そういうフレキシビリティだけは残させていただきたいと思います。ただ、考え方の基本はもう変えない、8項目の基本的な考え方はこの方向でやるということでも御了解いただければと思います。

いかがでしょうか、皆さん。ほかに御意見、御質問ございますでしょうか。

繰り返しになりますけど、この山崎さんが今Google Docsで上げていただいた内容について、質問ももちろん結構ですので、書き込んでいただければ、できる限り皆さんでコメントし合うと、そういう形態を取らせていただきたいと思います。今日のところはそれでよろしいですか。西潟課長も先ほどお名前あれですが、西潟課長もよろしゅうございますか。

【西潟】 ありがとうございます。ちょっと待ってください。

【加藤】 はい。聞こえております。

【西潟】 非常にいいと思います。非常にいいと思うんですが、「が」というのは逆説的な意味ではなくて、本田さんとかいろんな方からの一般社団法人云々という話、これは日本特有の話なのかもしれないんだけど、本田さんがおっしゃったとおりで、まさしくNGOという意味じゃ多分これが一番

スムーズなのが今の日本なのかなとは思いましたし、全然異論ないんですけど、大事なのはnext stepですよね。直近のnext stepは今加藤さんからいただいたんですけど、この後、例えばこちらのGoogle Docsのほうにも記載はいただいていたと思うんですけども、Japan IGFのコーディネーショングループの話とかが多分並行していくんでしょうけれども、あと発起人になる人がどのタイミングで集まってくるのかとか、何ていうんですかね。一意にジャンケンみたいに手の順番が決まるわけではないと思うんですけども、このペーパー自体は私、全然、個人的には何ら異論ないんですけど、todoリストなのか、next stepリストなのか、どっちの言葉がいいのか、ちょっと私もこの瞬間分らないんですが、そういうものが要と思います。例えば何年何月に法人化ができますみたいなコミットメントを求めているつもりは全くないんですけども、次に何と何をやって、次のボトルネックがどこにあるのかなとかいうことを、総務省も含めた関係される方々が考えていくときの助けにするという意味で、あってもよいかと思うんです。OECDのペーパーだと必ず最後にnext stepというのがあるんですが、今日の時点あるいはこの時点、この時点というのは、基本的な方向性についての活発化チームの中でコメントを募集して決めていくという理解ですけども、そういったものも必要ではないかと思いません。

【加藤】 一応この紙の一番後ろにも書いているんですが、そこも明確には書いていないので、まずは法人化の準備委員会というのをつくったほうがいいんじゃないかということをお指摘いただく方もいて、それで、もうここからは、私一人が何か書いているみたいにするよりは、準備委員会として、既に何人か細かくコメントしたりしていただいている方もいらっしゃるんで、もう少しそれを正式化して、1週間、10日ぐらいで準備委員会のメンバーも決めて、そこから発起人の方を確認したり、次回、2月19日、活発化チームの会合がありますけど、そのときまでに、こういう形で3月末には定款を登録したいとか、そういうことを言えるようにしたいなと思っています。

【西潟】 そういう事項を何らか書いていただけるとありがたいです。ちなみに、準備委員会というのはどこに書いてあるんですけど、すみません。

【加藤】 準備委員会というのは私がさっき口頭で申し上げたので、今山崎さんが、今見えているページの右側に準備委員会をやりますというふうに書いていただいて、今日はそのことを御提案して、この場で、この議事録に載せていただきますので。

【西潟】 ありがとうございます。

【加藤】 この準備委員会でみんなが手を挙げていただくと、できれば1週間ぐらいでそれをスタートできればなと思っています。

【西潟】 そうですね。それもGoogle Docsの中に入っているのであれば、それをあらためて拝見させていただければと思います。

【加藤】 入っています。はい。

【西潟】 コメントのところは今、山崎さんの名前を確認しましたけど。

そうすると、素朴な質問として、次の段階で総務省はどこに関われることができるのかしら。

【加藤】 総務省さんとしては、準備委員会の委員またはオブザーバーとして入っていただくと大変心強いです。

【西潟】 かしこまりました。承りました。具体の細かいところはちょっと別途あれですけども、基

本的に全然、喜んで、お邪魔でない限り。

【加藤】 私のイメージでは、週1ぐらいのペースで準備委員会で、こういうことをやらなきゃいけないとか、こういうことを決めようとかということをやっていききたいなど。IGFの報告会のプログラム委員会とか、そういうのもそんなペースでやったりしていますので、それを例えば5人なのか10人なのか、そういう委員会としてやっていききたいと思っています。

【西潟】 承りました。また追ってアップデートいただければ、いかようにもご協力いたします。

【加藤】 よろしくお願ひします。ぜひよろしくお願ひします。既に今までもいろいろとインプットいただいているので大変感謝しておりますので、よろしくお願ひします。

【西潟】 はい。私からは大丈夫です。ありがとうございます。

【加藤】 ほか、皆さん、いかがでしょうか。御意見、御質問ございますか。どなたか何かコメントしていますか。ちょっと今聞こえが、よく聞こえなかった。大丈夫ですか。

【山崎】 多分、今のは何かの自動音声が。

【加藤】 分かりました。はい。

じゃあ、今日はこれで大体アジェンダアイテムは終わりましたでしょうか。次回は、今申し上げたように、山崎さんの案に書いていただいた2月19日月曜日としたいと思っています。今申し上げたとおり、そのときまでに準備委員会がスタートして、法的な問題やいろいろなスタートまでのもう少し細かい詰めができればと思っています。実際、ちょっと私がインフォーマルに伺った感じでは、いろんな団体の中で発起人になるなりスタートのための出資をしていただくというような場合に、理事会決議とか内部での承認手続が必要になるので、それが3月ということで、それを受けて3月中に定款ができて、それをファイルドできれば、一応3月スタートというようなスケジュールができればなと思っています。ということで、次回2月19日までで、繰り返しになりますが、ぜひこの会合に、法人化準備委員会に参加登録をお願いしたいと思います。

それじゃ、今日はこれでアジェンダアイテムをカバーしましたので、お開きにしたいと思います。よろしいでしょうか。何か最後に言い残すことがございますでしょうか。もしなければ.....

【山崎】 山崎ですけれども、Todo確認に3点書きましたが、御確認ください、これでよいかどうか。1つ目は、たたき台に対してコメント募集をする。それとラストコール期間、それぞれ7日間ですかね。

【加藤】 はい。

【山崎】 2番目は、さっき西潟さんがおっしゃったnext stepもしくはtodoリストを作成する。3点目は、参加者もしくは活発化チームメンバーの中から準備委員会のメンバーに手を挙げてほしい、それぐらいでしょうか。

【加藤】 はい。これで結構です。さっきは、弁護士さん、会計士さん、ウェブ作成等について案があればお願ひしますということと、発起人になることを検討していますということはぜひ自薦・他薦で御検討くださいということを申し上げましたが、これは書いておいていただいてもいいんですが、項目としてはそういうことですね。発起人について自薦・他薦、それから、弁護士さん、会計士さん、ウェブ作成等について意見があればお願ひしますと。これも、準備委員会ができれば、そこで検討していくことになると思います。弁護士さん、弁理士、会計士さん、ウェブ作成等について意見があれ

ばコメントいただきたいということですね。

じゃあ、よろしいでしょうか、これで。今日も長い間、大変ありがとうございました。ぜひ何とかこの法人化について実現したいと思います。

【山崎】 本田さんから手が挙がっていますが。

【加藤】 そうですか。失礼しました。本田さん、お願いします。

【本田】 すみません。1つ前の項目8とも重なるかもしれないですが、発起人を要するに募集というか、募っていくのは、またその準備委員会のほうでやるということですか。

【加藤】 まあ、そうですね。ただ、自分がもう初めからなるという方は準備委員会に言っていただければ、いろいろと連絡させていただきます。

【本田】 そうなんですね。1口100万円ということの設定もあったので、各ステークホルダーの中からしかるべき団体なり企業なりに声をかけていくのかなと思ってはいたんですけども、その細かいことは準備委員会のほうでまず話して。

【加藤】 はい。準備委員会でやります。

【本田】 分かりました。

【加藤】 じゃあ、よろしいでしょうか。どうも長い時間ありがとうございました。また次回、よろしくお願いします。じゃあ、失礼します。ありがとうございました。